

木の家が持つ魅力をチェック。

【快適なくらし】



自然素材が持つ吸湿機能を、暮らしの中で感じられます。



建築過程を見守りながら、ただただ、完成が楽しみだったという山中さんご家族。みんなの大好きな家ことができました。



和室を中心に動線を確保したことで、広々と、使い勝手のよい空間になっています。

木の存在感がある家

高知市中久万の閑静な一角に建つ、黒い外壁とヒノキの木色とのコントラストが美しい家。落ち着いた感じがありながらも個性的な外観に、思わず目をうばわれます。

ここは、山中さんご家族の木の家。玄関に入ると、2階のリビングから、ご夫婦と2人のお子さんの楽しい笑い声が響きます。

山中由喜さん、真奈美さんご夫妻が、家を建てる決心したのは2016年3月初め。建築士に相談に行き、何回かの打合せを経て、2017年5月に完成しました。

わんぱくざかり、大歓迎！

風の通りや、日当たりを計算した梅原佑司建築士の提案で、リビング

ングは2階。天井は構造材であるスギの木を、あらわして見せることで、木の傘の下で暮らしているような、落ち着いた空間になっています。リビングの床はナラ材のフローリング。小上がり和室の周囲には、口の字にぐるりと廻れる動線が確保されています。おかげで、リビングからダイニングまで、障害物もなく、わんぱくざかりの子どもたちは思う存分走り回れます。夏はビールを飲みながら、バーベキューをしたいという由喜さんの希望をかねてのが、リビングから続くデッキバルコニー。ここにはヒノキ材を使用しています。

で過ごしていただきます。」と話す由喜さん。木の香りと、視界に入る木目に、自然と気持ちが落ち着くといひ、引越したその日から、ご家族みんなが、違和感なく暮らすことができたといいます。

休日は、外食にすることも多かったという山中さんご家族ですが、今では家でゆっくりするのが定番。友人やお客さんを招く機会も増えました。「みんなが、この家はなんだか落ち着くといってくれるんですよ。由喜さんも真奈美さんも、とっても嬉しそうです。」

ずっと居たいと思う家

「縁側に出て月見をしたり、星を見た。ゆっくり、のびのび、家族



山中さんご家族が「ずっと居たい」と思う場所。ここは、ぬくもりのある木の家でした。



廊下をぐるぐる走りまわる子どもたち。「どうぞ、ご自由に」。木の家で、のびのび、すくすく育つてね。

山中さん一家の経験から

木の家づくり Q&A



- Q 完成まではどれくらい？
- A 最初に建築士さんに相談に行ってから、1年ちょっとです。
- Q 建築士にリクエストしたイメージは？
- A シンプルで、長く子どもたちの代になっても住めるような家。
- Q 最初から木の家に決めていた？
- A 元々は建築士さんのすすめですが、話を聞いてその気に(笑)。県産材を使用したことで、県からの補助金がもらえたんですよ。



高知県からのお知らせ

高知県には、木材を使った家づくりを応援する「こうちの木の住まいづくり助成事業」があります。高知県産材を使用して家を建てると、上限100万円まで補助金の交付を受けられます。詳しくは高知県庁HPをご覧ください。



こうちの木の住まいづくり

取材協力：木と人・出会い館

木の良さを知りたい、木の家を建てたいと考えている方は、住宅について気軽に相談できる場所「木と人・出会い館」まで、お気軽にお問合せください。

住所／南国市緑ヶ丘1丁目1201-5
TEL／088・879・3304
営業時間／10:00～17:00
休館日／火・水



木と人であい館